

## 第104回奈良県河川整備委員会 議事概要

日時：令和5年10月31日（火）13時50分～15時50分

場所：奈良県郡山総合庁舎

出席者：

【委員】川池委員（委員長）、久保田委員、倉橋委員、河本委員、庄田委員、館野委員、原田委員、福井委員、堀野委員

【事務局】奈良県県土マネジメント部 河川整備課

議事：

- (1) 第103回委員会議事概要
- (2) 委員ご意見への回答について
- (3) 進捗点検（大和川水系（平城圏域））について
- (4) 環境モニタリング調査結果について（中間報告）

その他：

- (1) 今後の予定について

- (1) 第103回委員会議事概要について

特に意見無し。

- (2) 委員ご意見への回答について

特に意見無し。

- (3) 進捗点検（大和川水系（平城圏域））について

[共通]

○久保田委員 住民連携に関して、県内でいろんな団体が活動している。これまで上がってきているのは、県が主催したものか。あるいは各学校独自とか地域独自、あるいは市町村単位でやっているような活動なのか。

→いろんなパターンがあるが、地域、地域で集まってもらい、それで団体をつくって、それを県に登録している数を拾っていることが多い。

○久保田委員 天理市で年に1回リバーウォッチングをしたり、川の清掃をしたり、天理市が主催してやっている。そういうものも反映していくのか。

→今把握できているのは県の方だけで、市町村さん分は拾い切れていない。

○久保田委員 地域の子供たちや住民が川に行きやすくなったのかどうか、あるいはそういう実態をどれほどつかんでいるか。いろんな川辺での触れ合いをPRすれば、結構メディアでも取材に来たりすると思う。

→なかなかPRはできていない。佐保川の親水護岸は小学校で利用している実態をつかんでいるが、全ての場所となると把握できていない。

→親水護岸を整備した時はPRしているが、出来た後に常々PRするということは今のところできてい

ない。親水護岸が実際どうやって利用されているのか、設置して、どういった効果があるのかというところの検証もまだ全然できていない。ただ、総括として大和川ジャーナル等を使いながら河川に親しんでもらうためのPRの中に親水護岸等を入れたりしている。

○原田委員 水質は、菰川は町中を流れているということを考慮しても十分きれいだなと思ったが、残念ながら川のごみが非常に多いというのを見て感じた。

○原田委員 散乱ごみ、どこにごみが多量に落ちるかという水系モデルを連合でつくって、各県さん、市町村さんにも活用できるように提供しているが、そういったものがあることを把握されて、県民の皆さんと一緒に何か活動している事例があるのか。

→あまり把握できていなかったが、そういったものをフィードバック、地元を下ろしていきたいと思っている。

○久保田委員 奈良で、全国に自慢ができるような川はこの川ですというのをアピールしてはどうか。川を人々が自分たちのものに取り戻していこうという活動をしていながら、住民連携とか何かをやっていくことをやってもいいのではないかと思う。安心安全の治水対策だけ頑張っていますということよりも、もう少し奈良らしい資源をつくることに目を向けてほしい。

→PRの仕方、資源の活用というのは大きな課題だと思っているので、すぐに答えが出ることはないかもしれないが、しっかりと考えていきたいと思う。

○河本委員 親水空間の創出のところで、親水空間を創出するため階段護岸を設置している。親水空間と言っても中に入るわけではない。どういう表現がいいのか。点検指標のところはこの委員会の仕事としても結構大事だと思うが、代わるような表現があれば提案してほしい。

→持ち帰って考えます。

○原田委員 氾濫情報をメールで配信する件だが、恐らくアクティブじゃないユーザー数もそこに含まれていて、実際把握されるのは難しいと思う。この情報は恐らく市町村にも配信されていて、例えば市町村が運営しているLINE公式などで配信されている。インターネットでそういう状況も確認し、恐らくは確実に住民の皆さんに情報が伝わっていると思うので、メールで警報を配信されているかということも評価の指標として入れた方がいいのではないかと思う。

#### [秋篠川（秋篠工区）]

○福井委員 秋篠工区（秋篠川）の整備率が平成30年で57%、今回が58%と1%しか進んでいないのはなぜか。

→ほぼ井堰の工事だけを行っているので、改修延長にすると20mになる。

○福井委員 今回の整備率は予定通りなのか。平成30年の整備目標は変わっていないのか。

→平成30年時点での整備目標は、5年間で外山橋までの200mを完了するとしており、目標設定は変えていない。井堰の水利権者との調整に時間を要したことで事業着手は遅れている。

○原田委員 川が堤防から見ると河床を切り下げて深くなっていて、子供たちが遊びにくくなっている。安全を考慮しているのだろうがレクリエーション等の視点が少し欠けているのではないかというのを感じた。以前工事したと思われる多自然型護岸の写真があるが、肝心の水

際部がコンクリートになっている。植生も大事だが、水際部は普通に水辺に降りて上がれるというのが大事だと思う。

→親水護岸を作っている川は少ないが、川に降りることができるような整備が可能などころでは実施している。今回の対象区間では計画していないので、意見としていただく。

○河本委員 奈良県の河川整備の方針としてこういうふうにやっていますという看板を設置するとしたら、秋篠川の2か所が一番よいと思う。玉石の多自然型の護岸をつくっていますという説明ぐらいはあそこにあってもよいと思う。すぐ近くに平城小学校があり、秋篠川を活用した形の教育というのを今進めている。そことリンクする形にすると、県の一つの成果としてアピールできると思う。

→看板設置ができるかどうかを検討する。

#### [秋篠川（西ノ京工区）]

○堀野委員 高水敷を2割勾配で計画すると記載してあるが、ここはいじらない部分なので、整備を実施するような「計画する」という表現にはならないのではないかと思う。

○館野委員 今回施工している自然石タイプの護岸は、5年前の委員からの「薬師寺をバックにしてこの景観はあまり好ましくないのではないか」という意見を踏まえての変更なのか。

→歴史遺産の場所なので、意見を踏まえて配慮している。

○河本委員 奈良県景観区間と書かれた看板が現地にあったが、景観資産のエリア設定というのがあるのか。条例措置が含まれているのか。

→エリアにつきましては、確認して連絡する。

○河本委員 河川整備では景観等に対してこのように配慮しているというのを現場で確認できなかった。奈良県はこのように頑張っているということをもっとPRしてほしい。

→PRの仕方は考えていく。

○川池委員長 護岸を自然石タイプにするような話が出ていたかと思うが、現地で確認すると河床の傷みが何とかならないのかと思った。堰を落としている間は水面に隠れて目立たないかもしれないが、今の時期だと見た目にも良くない感じを受ける。

→了解した。

#### [地蔵院川（郡山工区）]

○河本委員 至るところに農業用の取水堰があって、これを可動堰に変更、改修しており、取水堰自体やその前後に落差工があり、生き物の移動が難しいような状況がたくさん見受けられる。魚類相も非常に単調で、井堰をつくると、水の流れが止まり、オオクチバス等の大きい魚が好む環境になり、移動できない在来種は食べつくされてしまう可能性がある。今後、井堰を整備される際は、小さい井堰でも魚道を設置したり、その前後の落差工が在来種の魚類が移動しやすいようにしたりという配慮をすることで改善されると思う。井堰の改修についても生き物への配慮をもう少しすればより魅力的な川になると思う。

○河本委員 今日車を止めて見た上流側のところが現状は植生が豊かで、犬の散歩でもしたくなるような道だが、あれが下流側と同じような無機質な形に変わるのには抵抗感がある。景観面、

環境面ともに特に配慮する気はないぞということが記されているが、今回の工区の中に、大和郡山市が小学校6年生に無名橋の橋の名前をつけてもらうプロジェクトをやっており、県としてどのように考えているか。市との連携というのを図ってほしい。

→そういったプロジェクトは今初めて知った状況なので、どういうものをまず調べながら考えていきたいと思う。

#### [蟹川]

○堀野委員 高水の数値が小さいのは何か要因があるのか。蟹川の流域面積は 8km<sup>2</sup>、これに対して高水は流末で 45m<sup>3</sup>/s。1km<sup>2</sup>当たり 5m<sup>3</sup>/s ちょっと。まあまあ小さい値だと思うし、雨量の想定が例えば 30mm だとすると 60m<sup>3</sup>/s ぐらい処理する雨が想定される。町中だったら流出率 0.9 ぐらいは普通に出る。流域の雨としては過小評価されているんじゃないのかと思う。

→蟹川の上流というのは田んぼが広がっているの、実質流出率 0.9 ではなく、もう少し低い水準となっていることはあると考えている。

#### [能登川]

能登川に関する質疑は特になし

#### [菰川]

○原田委員 既に改修済みの区間で河床に護床ブロックを設置して平坦な河床になっている。このような状態だと、流量が少ないと土砂が堆積し、一定期間が経つと浚渫されるという繰り返になる。流量の少ない川は一定の水量が流れるみお筋をつくって、そこに河床の変化を設けるほうが正しい。今後の工事ではそのような施工をすると非常に魅力的な川ができ、コストダウンにも繋がるのではないかと思う。

○河本委員 菰川環境美化協議会が花を植えていますというのが今回の資料の中に菰川環境美化協議会の名前が全然出てこないのが気になっている。あれだけ熱意を持って、すごく狭い空間のところで頑張っている姿をもう少し活かしてもいいし、協働の姿勢というのを条件として明示してもよいと思う。例えば、親水空間の創出のところに、階段護岸を設置もそうだが、菰川環境美化協議会と相談しながらどのような景観がよいかということ議論するとか、そういう表現を入れてみるのも1つやり方としてはあると思う。

→菰川の環境美化協議会は、定期的に総会とか協議会が開かれており、県もそこに参加しているいろいろな意見交換をしている。そういう視点も含めて記載方法を考えていきたいと思う。

○河本委員 歴史性への配慮というところで、自然環境の復元もそうだが何も書かれていない。歴史性への配慮に関しては、未来への歴史をどうつくっていくかということも視点として持ってよいと思う。寺であったり、古墳であったり、市役所なんかも非常に近いところなので、未来に向けての景観をどうつくっていくかという視点を歴史の町奈良では大事な要素と思うので、少し入れるとよいと思う。

#### (4) 環境モニタリング調査結果について（中間報告）

○河本委員 地蔵院川の点検区間（事前）は、自然環境の復元、その他もろもろ特に配慮を何もしないということになっている。しかしカマツカやドジョウ類がいる。全く配慮しないという結論でいいのか。

→特筆すべきことがないので記載していない。

○河本委員 モニタリング調査よりも前に点検指標というのはつくられているか。

→モニタリング調査の結果を受けて、資料の修正を行っているところもあれば、まだ調査が途中だということもある。調査の結果を受けて、書き方、資料が適していないということがあれば、そこは直していく。また、冬の調査も終わって、書いてある内容とずれが出てくれば、資料修正等が出てくる可能性はある。

○河本委員 地蔵院川の点検区間に関して、カマツカが見つかっているのは今回の調査対象河川の中では唯一のようであり、ドジョウ類に関してもほかは1種だけだがここは2種見つかっている。何らかの配慮はしたほうがよいのではないかと思う。

→検討する。

○河本委員 住民の皆さんと一緒にあるいは小学生とかを巻き込んでお魚の救出作戦みたいなことをしていくと、また違った取組が地域でも生まれるのではないかなと思う。逆にこれをチャンスに変えていくことができるのではないか。

→地元との関わりというところを考えていく必要があると思っている。

○久保田委員 調査によって何がいたで終わるのではなく、この生き物がいるということによってどういう意味があるかということ専門の人の意見を取り入れながら紹介していく必要があると思う。

→こんな生き物がいたからどういう状態だという見解を伝えるという方法を考えていかないといけないと思っているが、「どういう生き物がいる」というのを一般の方に周知するような方法もレッドデータブックみたいなものを活用していければと考えている。

○久保田委員 大事なものは、珍しいものがあるのではなくて、たくさん種類がいるということのほうが本当は意義のあることである。種類数が非常に多いということは、それだけ色々な生き物が生きやすい場所だということを示している。そういうところをちゃんと評価して報告書に記入していくのがいいと思う。